

とやの潟・いけばなワークショップ

～今ある自然と共に見つめなおす取り組み～

主催：クールジャパン道場華道部



移りゆく“命”を最大限に表現



季節感と鳥屋野潟らしさを表現する作品を制作

鳥屋野潟公園には、外来種をはじめとする人間の活動によって他の地域から入り帰化した草木が、除草剤を使用しない管理法により多く生息しています。旬な花材を取り合わせ、移りゆく“命”を最大限に表現するいけばなで鳥屋野潟周辺住民の営みの過去、現在、そして未来の姿に、華道の視点で光をあてる。鳥屋野潟公園で樹木管理上伐採される草木を主に使用し、いけばな作品制作、ワークショップを行った。「自然の中で草木と向き合う時間は新しい発見があり短時間でいけばな作品を完成でき、とても楽しかった」など参加者の感想をいただいた。潟マルシェ来場者の中には市内在住の外国人もあり、自然の中で気軽に“いけばな”を体験できる場として、いけばなの原点である花の命をいかすことを実感できるよい環境を提供できたと思う。水と土にはぐくまれた新潟の自然の中で、華道の新しい可能性を探った。いけばなで何かを表現する、場を

装飾するほかに、身近な草木の姿に目をとめ、美しさを見いだす、そんな行為で日常生活が少し明るくなるのだ。誰にでもできる“花をいける”ということ、共に季節の移り変わりを感じることで、人と人、人と自然を結ぶ花の力を感じていただけた。外来種を含む潟周辺の自然環境を、駆除することだけでなく、水辺の恵みに転換し積極的に公園の環境美化に役立てることができた。大雪、猛暑のため、公園内の草木が例年のような状態ではなく、毎回工夫の連続で途中何度も屋外での活動の限界を感じた。しかし、参加者の好奇心、達成感に触れ、充実した気持ちで無事終了できたことをうれしく思う。鳥屋野潟保全と活用にかかる様々な方々との連携を深め、花の力をいかし、その結束をさらに高め、鳥屋野潟の未来を共に考える大きなきっかけになったと思う。

●5月13日(日)、6月10日(日)、7月8日(日)、8月12日(日) ワークショップ (新潟県立鳥屋野潟公園)

 水と土の芸術祭
Water and Land Niigata Art Festival 2018

市民プロジェクト2018アーカイブ 026